

## OPEC 減産合意を踏まえて

- ✓ OPEC と非 OPEC が計約 170 万 b/d の減産で合意した(生産シェア 6 割、減産 2%)。市場関係者の間で石油需給がこの先引き締まるという見方が生じ、WTI 原油価格は上昇、50 ドル/bbl 付近で推移している。
- ✓ OPEC、非 OPEC の減産合意が順守された場合需給は引き締め、高止まりしている OECD 石油在庫が取り崩しに転じる可能性がある。
- ✓ また、需給引き締まりの状況が進んだ場合価格は上昇し、油価下落以降停滞していた大規模上流案件の開発が進展する可能性がある。
- ✓ 一方で今後の需給は北米タイトオイルの投資、増産、OPEC 減産合意の順守状況、ロシア他非 OPEC 産油国の生産水準などの不確定要素がある。

\*本稿は 2016 年 12 月 26 日のブリーフィング「[OPEC 減産合意を踏まえて](#)」のレポートで情報・データは当時のもの。  
[「OPEC 減産合意を踏まえた米シェール企業の動向](#)」および「[8 年ぶりの減産合意に踏み切った OPEC](#)」も併せてご参照下さい。

### 1. OPEC 減産合意、非 OPEC 協調減産概要

#### (1) OPEC 減産合意

OPEC は 2016 年 11 月 30 日にウィーンで開催した通常総会において、加盟国別に原油生産上限を設定し、加盟国全体で生産量を日量約 117 万バレル引き下げることで合意した(表 1)。加盟各国別の生産上限が設定されたのは 2008 年以來 8 年ぶりのことである。2009 年から 2011 年にかけて加盟 11 カ国(現在の加盟国からガボン、インドネシア、イラクを除く)合計で約 2,485 万 b/d の生産枠が設定されていた。ただし順守率は低かった。2011 年 12 月の OPEC 通常総会では加盟各国の生産上限が設定されず、イラクを含む加盟国全体で生産上限が 3,000 万 b/d に設定された。2012 年頃から米シェールオイルの増産が顕著となり 2014 年 11 月の OPEC 通常総会では生産上限を引き下げるのではないかと思われたが、OPEC は現在の供給過剰は大水深や非在来など「高コストの石油」の撤退・減産から是正すべきとの観点に立ち、生産上限引き下げを見送、市場シェア確保戦略を明確にした(2015 年 12 月の通常総会では

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

生産上限そのものが撤廃)。これにより市場関係者の間で石油需給の緩和感が強く意識され、油価急落の引き金となった。WTI 価格は 2016 年 2 月 11 日に 26 ドル/bbl にまで落ち込んだ。

2016 年 2 月 16 日に OPEC・非 OPEC4 カ国(サウジアラビア、ロシア、カタール、ベネズエラ)がドーハにおいて、他の主要産油国が追随することを条件に各国の原油生産量を 2016 年1月の水準で固定(増産を凍結)することで合意した。市場関係者の間では生産調整を放棄し、市場シェア確保を図ってきた OPEC 主要国が価格防衛に乗り出した動きとして注目を集め、油価の下支え要因となった。その後、複数回の交渉を経て今般の合意に漕ぎ着けた。

今般、加盟 14 カ国中 11 カ国に生産上限が設定された。ナイジェリアとリビアは政情不安等から通常時に比べ事実上の減産状態となっているため除外され、インドネシアは輸入国ポジションであるため加盟国の資格停止状態となり減産対象から外れた。

その他の国は一部の例外を除き減産幅は基準原油生産量(OPEC による 2016 年 10 月生産量)に対し約 4.6%の削減となっている(表 2 参照)。イラクは 1990 年代以降初(18 年ぶり)の生産上限への参加となるが、他国同様基準生産量に比べ 4.6%削減で合意した。イランは当初同国が主張した生産水準(397.5 万 b/d)に対し 4.6%削減した量で合意したが、基準原油生産量に比べると 2.4%増(9 万 b/d 増)の増産が認められており、サウジアラビアとイランの双方が妥協した形となっている。またアンゴラは深海 Dalia 油田がメンテナンスに入る前の 2016 年 9 月生産量を基準生産量としている。

減産実施期間は 2017 年 1 月から 6 月までの 6 か月間で、次回 OPEC 総会 2017 年 5 月 25 日(予定)で新たな生産上限について協議を行う。減産は市場の状況によりさらに延長される可能性がある。

OPEC の減産順守率はこれまで高いものではなかったが、今回は OPEC および非 OPEC メンバー5 か国による減産順守監視委員会が設立された。議長国はクウェートでその他 OPEC メンバーはベネズエラ、アルジェリア、非 OPEC メンバーはロシア(議長代行国)とオマーンである。

生産上限設定対象 11 か国の基準生産量 3,097 万 b/d に対し 2017 年 1 月からの生産水準は 117 万 b/d 減の 2,980 万 b/d となる。生産水準が設定されなかった 3 か国が足元の原油生産水準を維持した場合 OPEC 産油国合計の生産量は 3,268 万 b/d となり、2017 年は需要と供給がほぼ均衡する(10 月時点の OPEC 事務局による対 OPEC 原油需要< Call on OPEC >は 3,269 万 b/d)。

## (2) 非 OPEC 協調減産概要

またロシアなどの非 OPEC 産油国も市場安定、価格防衛の観点から生産調整に前向きであり、12 月

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

10日にウィーンで開催されたOPECと非OPECの会合では非OPEC11か国(アゼルバイジャン、バーレーン、ブルネイ、赤道ギニア、カザフスタン、マレーシア、メキシコ、オマーン、ロシア、スーダン、南スーダン)が合計55.8万b/dの減産を実施する旨表明した(表1)。

表1：OPEC減産合意、非OPEC協調減産概要

|        | OPEC  | 非OPEC  |
|--------|---|--|
| 合意     | 2016年11月30日<br>(2008年以来8年ぶりの国別生産上限)   | 2016年12月10日<br>(2001年12月以来15年ぶりの協調)                                    |
| 実施国    | 加盟14か国中11か国<br>インドネシア<資格停止><br>リビア・ナイジェリア<除外>   | ロシア、メキシコ、オマーン等11か国*  |
| 実施期間   | 6か月(2017年1月～6月)   |  |
| 減産量、割合 | 11か国計117万b/d、一部例外を除き10月生産水準比4.6%減   | 11か国計56万b/d<br>一律ではない、10月生産比3%減  |
| その他    | ・イラクは90年代以降初の生産上限<br>・イランは従来の増産目標を下回る<br>・減産順守監視委員会(5か国)<br>OPEC:クウェート(議長国)、ベネズエラ、アルジェリア。非OPEC:ロシア、オマーン | ・11か国(アゼルバイジャン、バーレーン、ブルネイ、赤道ギニア、カザフスタン、マレーシア、メキシコ、オマーン、ロシア、スーダン、南スーダン) |

各種情報に基づき作成

非OPECによる協調減産合意は2001年12月以来15年ぶりのことである。減産幅は各国の事情に合わせたもので一律ではない。各国の個別の減産量は正式には表明されていないが、ロシアは2016年10月の原油生産量1,124.7万b/d(エネルギー省公表値)から30万b/d減産(-2.7%)し、6か月後までに1,094.7万b/dとする。メキシコ、オマーン、アゼルバイジャン、カザフスタンは削減量のみ公表しており、メキシコは10万b/d、オマーンは4万b/d、アゼルバイジャンは3.5万b/d、カザフスタンは2万b/dそれぞれ減産する。その他6か国の国別削減量は不明だが計6.3万b/d減産する模様である(表1参照)。非OPECの基準原油生産量は公表されていないのでIEA2016年10月生産量に基づき試算したところ、11か国の2016年10月の生産量1,874万b/dに対し2017年1月からの生産水準は平均3%減(56万b/d減)の1,818万b/dとなる(表2参照)。

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

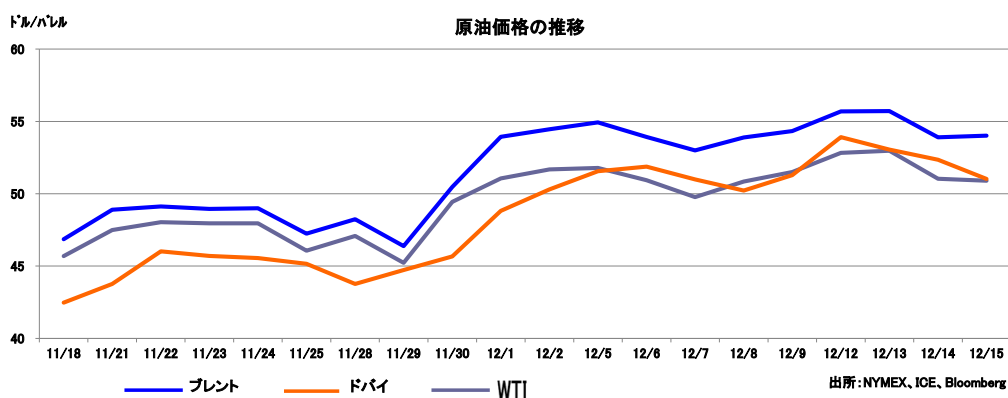
表 2 : OPEC・非 OPEC 減産協調国の生産シェア、減産規模

|                   | 2016年11月30日OPEC総会 |                       |      |       | 2016年12月10日OPEC・非OPEC会合    |                       |                |      |       |
|-------------------|-------------------|-----------------------|------|-------|----------------------------|-----------------------|----------------|------|-------|
|                   | 基準原油生産量           | 原油生産水準<br>(2017年1月以降) | 削減量  | 削減率   | 原油生産水準<br>(IEA,2016年10月)** | 原油生産水準<br>(2017年1月以降) | 削減量            | 削減率  |       |
| アルジェリア            | 109               | 104                   | -5   | -4.6% | メキシコ                       | 242                   | 232            | -10  | -4.1% |
| アンゴラ              | 175               | 167                   | -8   | -4.5% | ロシア                        | 1,125                 | 1,095          | -30  | -2.7% |
| エクアドル             | 55                | 52                    | -3   | -4.7% | オマーン                       | 102                   | 98             | -4   | -3.9% |
| ガボン               | 20                | 19                    | -1   | -4.5% | アゼルバイジャン                   | 83                    | 79             | -4   | -4.2% |
| インドネシア            | —                 | —                     | —    | 資格停止  | カザフスタン                     | 171                   | 169            | -2   | -1.2% |
| イラン*              | 371               | 380                   | 9    | 2.4%  | マレーシア                      | 71                    | 左記6か国計6.3万b/d減 |      |       |
| イラク               | 456               | 435                   | -21  | -4.6% | バーレーン                      | 21                    |                |      |       |
| クウェート             | 284               | 271                   | -13  | -4.6% | ブルネイ                       | 11                    |                |      |       |
| リビア               | —                 | —                     | —    | 減産除外  | 赤道ギニア                      | 28                    |                |      |       |
| ナイジェリア            | —                 | —                     | —    | 減産除外  | スーダン                       | 9                     |                |      |       |
| カタール              | 65                | 62                    | -3   | -4.6% | 南スーダン                      | 12                    |                |      |       |
| サウジアラビア           | 1,054             | 1,006                 | -49  | -4.6% | 非OPEC11か国計<br>(供給の19%)     | 1,874                 | 1,818          | -56  | -3.0% |
| UAE               | 301               | 287                   | -14  | -4.6% |                            |                       |                |      |       |
| ベネズエラ             | 207               | 197                   | -10  | -4.6% |                            |                       |                |      |       |
| OPEC計<br>(供給の35%) | 3,097             | 2,980                 | -117 | -3.8% | 供給計                        | 9,784                 | 9,612          | -173 | -1.8% |

OPEC、IEA 等に基づき作成 \*OPEC 減産合意国の基準原油生産量は OPEC 公表の 2016 年 10 月生産水準(イランは自国主張水準)、  
 \*\*非 OPEC 減産協調国の原油生産水準、削減量のうちロシアはエネルギー省公表の 2016 年 10 月水準、メキシコ、オマーン、アゼル  
 バイジャン、カザフスタンその他は削減量のみ公表のため、IEA2016 年 10 月生産量を仮置き、その他の国の国別削減量は不明。

### (3) OPEC 減産合意、非 OPEC 協調減産に対する市場の反応

OPEC・非 OPEC 減産協調国を合わせた生産シェアは供給の 6 割、減産規模は 2%に相当する。市場  
 では需給がこの先引き締まるという見方が生じ、原油価格は上昇した。12 月 13 日の WTI 原油価格は  
 52.98ドル/bbl で 11 月 30 日の OPEC 総会前に比べ 7.7ドル/bbl 上昇した。その後も 50ドル/bbl  
 付近で推移しており上昇を窺う状況にある。



#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

図 1：原油価格の推移（2016年11月18日～12月15日）

(4) 世界の石油需給バランス

①世界石油需給バランス推計（2015→2016年）

OPEC の市場シェア確保戦略と米シェールオイル等の増産により 2015 年は約 170 万 b/d の供給過剰であった。2016 年の世界の石油需給バランスについて IEA に基づき試算を行ったところ、2016 年は需要が約 140 万 b/d 伸び、米シェールを含む非 OPEC の生産は前年比約 90 万 b/d 減少したが、OPEC の生産が同約 140 万 b/d 増産したことで供給過剰は 90 万 b/d に縮小したものの依然として過剰の状態であった。

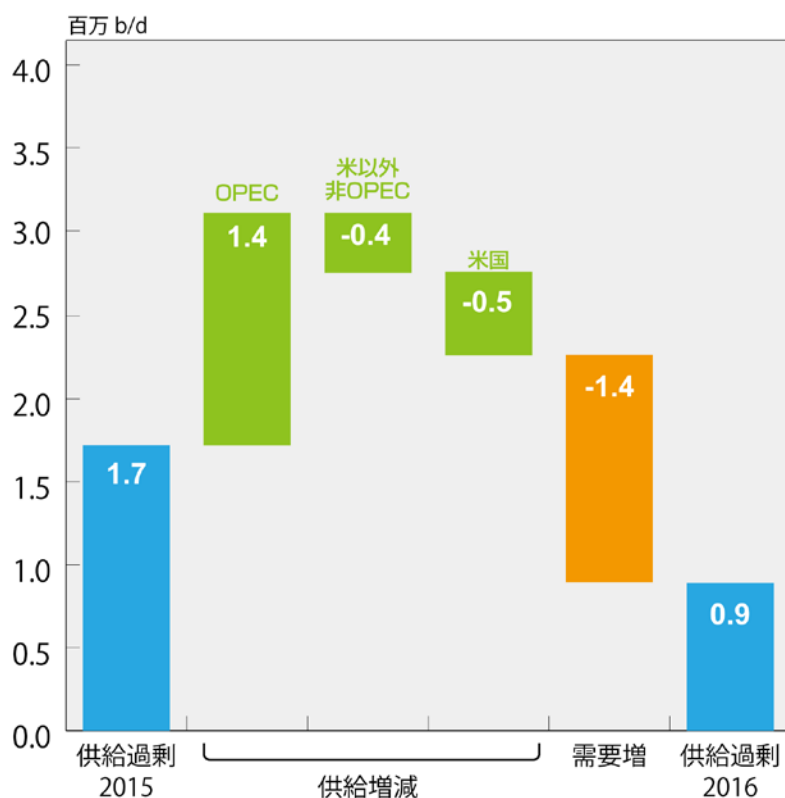


図 2:世界石油需給バランス推計(2015→2016年)

IEA に基づき作成、OPEC は 2016 年 1-11 月の平均生産量

②世界石油需給バランス推計（2016→2017年）と OECD 石油在庫

2017 年 1 月以降 OPEC、非 OPEC の減産合意が順守された場合の 2017 年の世界の石油需給 balan

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

スについて IEA に基づき試算を行ったところ、2016 年の 90 万 b/d の過剰から一転供給不足に生じる計算となる。2017 年の原油生産について IEA に基づき試算(OPEC 減産合意 11 か国は 11 月 30 日合意の生産上限、ロシアは 12 月 10 日合意の生産上限が続く、非 OPEC 協調減産合意国のうちメキシコ、オマーン、アゼルバイジャン、カザフスタンは IEA2016 年 10 月生産量に対する削減合意量が継続と仮定)を行ったところ、OPEC の生産は 2016 年の平均生産量に対し 70 万 b/d 減少し、非 OPEC は 20 万 b/d の増加(協調減産合意国生産に米シェールオイルを含む米国の増産 5 万 b/d およびカナダやブラジルの増産を加味)となるが、需要が約 130 万 b/d 伸び、2017 年は 90 万 b/d の供給不足に転じる計算となる。

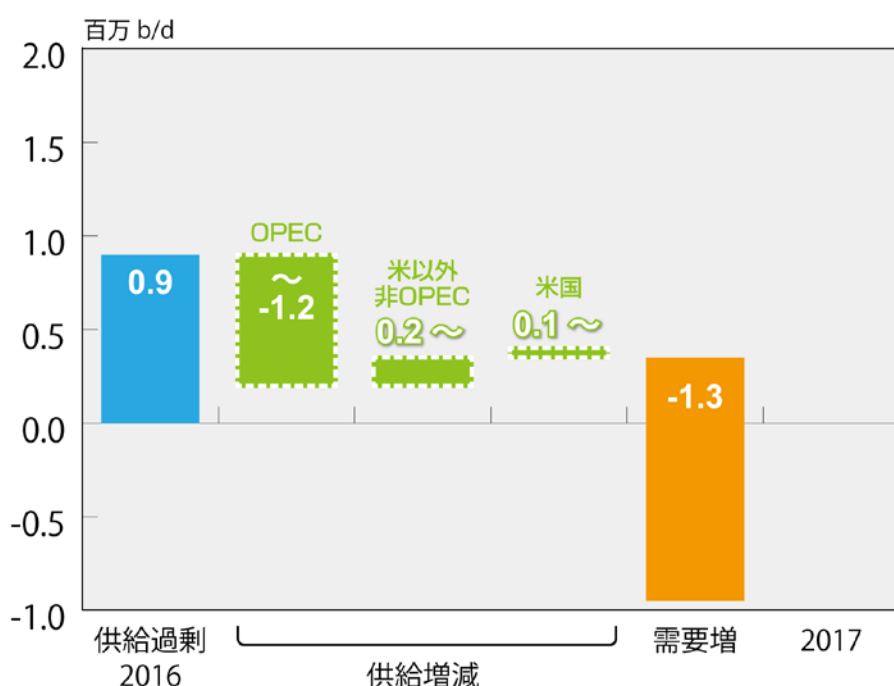


図 3:世界石油需給バランス推計(2015→2016 年)

IEA に基づき作成、2017 年原油生産について OPEC 減産合意 11 か国は 11 月 30 日合意の生産上限、ロシアは 12 月 10 日合意の生産上限が続くと仮定。非 OPEC 協調減産合意国のうちメキシコ、オマーン、アゼルバイジャン、カザフスタンは IEA2016 年 10 月生産量に対する削減合意量が継続と仮定

### ③石油在庫の取り崩し

OPEC、非 OPEC の減産合意が順守され、需給が引き締まった場合、高止まりしている OECD 石油在庫が取り崩しに転じる可能性が出てくる。ただし 2016 年 10 月の OECD 石油在庫は減少傾向にあるが、

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

依然高水準(平年<2011～2015年平均>に比べ+3億バレル、OECD石油消費の1週間分相当高い)である。OECDの石油消費は世界の石油消費の約5割(約4,650万b/d)を占める。単純に過去5年平均(2011～2015年)を上回る高水準の在庫3億バレルを2017年の供給不足90万b/dの2分の1(45万b/d)で割ると666日(約1年10か月)となる。石油在庫の取り崩しには一定の時間を要する計算となる。ただし2017年の平年水準は2012～2016年となり、近年の高在庫がより反映されたものとなる。このため、足元の在庫量との差が緩み、在庫の取り崩しが進む印象となる。

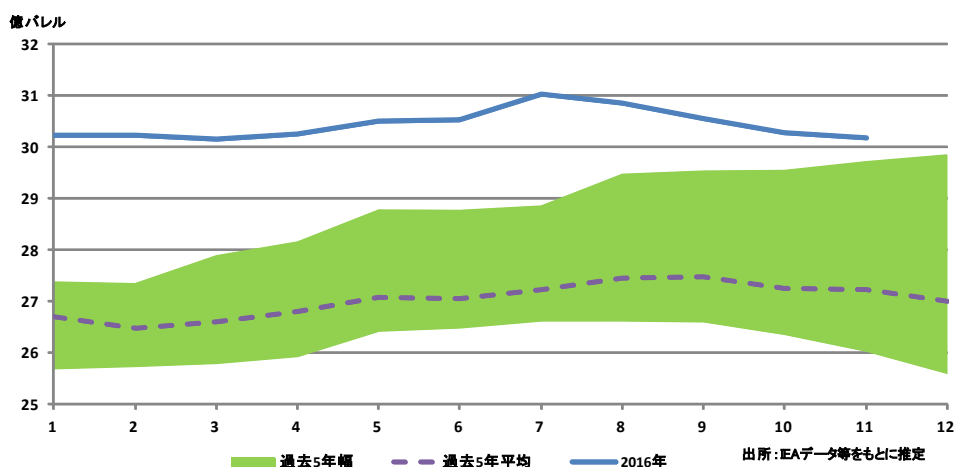


図 4 : OECD 石油在庫

## 2. 今後の注目点

今後の注目点として次の2点が考えられる。まず需給引き締まりの状況が進んだ場合価格が上昇し、油価下落以降停滞していた深海など大規模上流案件の開発が進展する可能性だ。一方で今後の需給は北米タイトオイルの投資、増産、OPEC 減産合意の順守状況、ロシア他非 OPEC 産油国の生産水準などの不確定要素があることに留意すべきである。

### (1) 油価回復により米シェールオイルの増産ペースは加速するのか

米シェールオイルの生産は短期間で激しい増減をしている(図 5)。米エネルギー省エネルギー情報局 EIA によると、2014 年に前年比 100 万 b/d 増加の 470 万 b/d、2015 年には同 60 万 b/d 増加、油価下落後は減産に転じ 2016 年には同 50 万 b/d 減少の 480 万 b/d であった。

EIA は 2017 年 1 月の主要鉱床からのシェールオイル生産量を前月比 2000b/d 増の 454 万 b/d と予

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

測している。前月比増加は2015年4月以来のことである。主要生産地域のうち Bakken、Eagle ford は前月比減少が続くが、Permian は増産基調で前月比3.7万 b/d 増の212.6万 b/dとなっている(図6)。足元はまだ微増に転じるという状況だが、OPEC の減産合意と非 OPEC の協調減産を受け価格が50ドル/bbl 付近に回復し、今後需給引き締まりが意識され、価格がさらに上昇を窺う状況にある中、2014年や2015年のような短期間で急激な増産につながるのではないかという見方が浮上している。

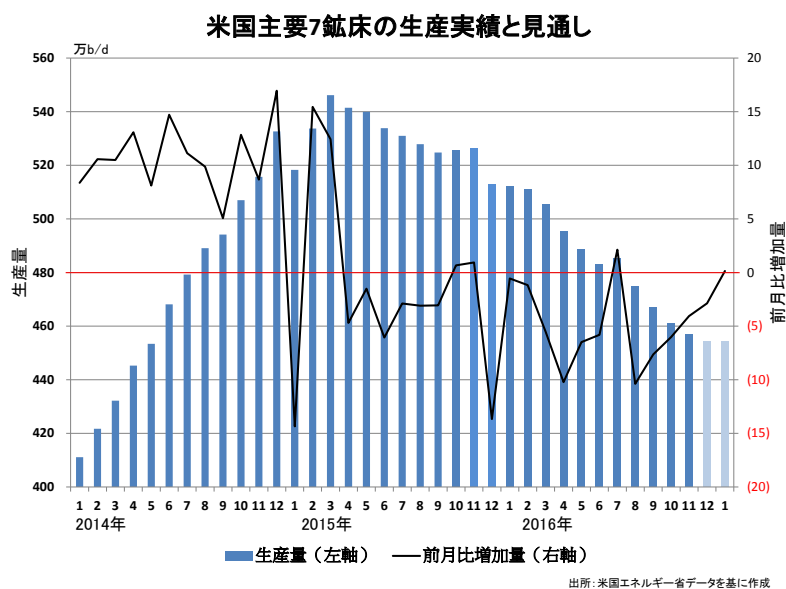


図5：米国シェール主要鉱床生産推移（2014年1月～2017年1月）\*12月以降は推計

| Oil production<br>thousand barrels/day |               |              |        |
|--|---------------|--------------|--------|
| Region                                 | December 2016 | January 2017 | change |
| Bakken                                 | 918           | 905          | (13)   |
| Eagle Ford                             | 1,003         | 980          | (23)   |
| Haynesville                            | 42            | 42           | -      |
| Marcellus                              | 36            | 37           | 1      |
| Niobrara                               | 403           | 406          | 3      |
| Permian                                | 2,089         | 2,126        | 37     |
| Utica                                  | 49            | 46           | (3)    |
| Total                                  | 4,540         | 4,542        | 2      |

図6：米国シェール主要鉱床の生産見通し（出所 EIA）

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。



## (2) OPEC の生産上限順守

OPEC は次の OPEC 総会まで生産上限を守るのか、またサウジアラビアとイランなど断交状態にある加盟国がある中で結束を維持できるのか？減産順守監視委員会は有効に機能するのかといった点が気になる。特に気になるのが今回生産上限の対象外であるリビアとナイジェリアで治安が好転すれば両国がそれぞれ 20 万 b/d 程度増産に向かう余地がある。この他、過去に生産枠破りの常習犯であったベネズエラとアンゴラのうち、ベネズエラについては財政危機により生産を維持するための投資すら十分に行えない状況にあるので自然減退により目標を達成できるか、または目標を下回る状況すらあり得るが、アンゴラについては増産に向かう可能性がある(表3参照)。1月の生産実績が判明する2月上旬の状況によって油価は変動する可能性がある。

表 3：OPEC の生産上限順守状況が気になる国

|         | 基準原油生産量<br>OPEC2016年10月<br>* | 原油生産水準<br>2017年1月以降 | 今後の注目点               |
|---------|------------------------------|---------------------|----------------------|
| サウジアラビア | 1,054                        | 1,006               | 減産規模(財政)             |
| イラン     | 371                          | 380                 | 減産規模                 |
| イラク     | 456                          | 435                 | 減産規模                 |
| ベネズエラ   | 207                          | 197                 | 経済危機と自然減退            |
| アンゴラ    | 175                          | 167                 | 減産規模                 |
| リビア     | 対象外*58                       | -                   | 生産上限対象外<br>治安回復による増産 |
| ナイジェリア  | 対象外*162                      | -                   | 生産上限対象外<br>治安回復による増産 |

## (3) 非 OPEC の協調減産、その他非 OPEC の生産

ロシアなど非 OPEC 減産協調国は減産を行うのか、行う場合その規模とペースはどうなるのか？また非 OPEC 諸国の自然減退による生産減がどの程度になるかについても需給バランスを見る上で要注目である。

元々ロシアは1月に直ちに30万 b/d の減産を行うのではなく、技術的に可能な範囲で段階的に減産

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

を進め、2017年2月までに2016年10月の生産量1125万b/dから20万b/dを削減する見込みとしている。任意で各社が1月1日から2.7%の減産を実施することになっている。ロシア政府に個別企業への減産を命じる権限はないが、エネルギー省はパイプラインでの石油輸送に関する裁量権を有しているため、減産に応じない企業に制裁を科す可能性も考えられると報じられている<sup>i</sup>。

カザフスタンは2万b/dの減産を行うことになっているがKashagan油田が2016年12月7日に商業生産を開始し、生産量は現在の10~12万b/dから2017年末までに37万b/dに増加する見込みである。しかし同国はKashagan、Tengiz、Karachaganakなど主力油田の生産は維持し、成熟油田であるAktobe、Kyzylorda、Mangistau油田の生産を抑制する模様である<sup>ii</sup>。アゼルバイジャンも同様に3.5万b/dの減産をコミットしているが主力のAzeri-Chilag-Guneshli(ACG)油田(現行生産量約64万b/d)の減産は行わず、他の成熟油田の減退によるとのことである。メキシコも10万b/dの減産をコミットしているがPemexが2017年の生産量は現在の217万b/dから20万b/d程度減退するとしており、自然減退の加速により目標を達成できそうである。中国も2016年は投資の縮小と高コストの成熟油田の減退により生産が6%(約26万b/d)落ちており2017年も減退が進む可能性がある。IEAによるとカナダは2017年に20万b/d、ブラジルは30万b/d程度増産の見通しだが低油価による開発の遅延やキャンセルで増産の伸びが鈍化しており、増産ペースが気になるところである。

表4：非OPECの協調減産、増産ペースが気になる国

|           |          | 原油生産水準<br>IEA,2016年10月* | 原油生産水準<br>2017年11月以降* | 今後の注目点       |
|-----------|----------|-------------------------|-----------------------|--------------|
| 協調<br>減産国 | ロシア      | 1,125                   | 1,095                 | 減産規模とペース     |
|           | カザフスタン   | 171                     | 169                   | 新規油田開発とのバランス |
|           | メキシコ     | 242                     | 232                   | 減産？自然減退      |
|           | アゼルバイジャン | 83                      | -                     | 減産？自然減退      |
| 非協調<br>国  | カナダ      | 465                     | -                     | 増産ペース        |
|           | ブラジル     | 273                     | -                     | 増産ペース        |
|           | 中国       | 383                     | -                     | 自然減退         |

<sup>i</sup> Kommersant,16/12/15

<sup>ii</sup> Akipress,2016/12/12

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。